



WORK VS KF#

SIZE/PRICE
 18inch 7.0J~14.0J/¥86,900~¥105,600
 19inch 7.5J~15.0J/¥105,050~¥133,100
 20inch 7.5J~15.0J/¥117,150~¥145,200
 21inch 7.5J~14.0J/¥134,750~¥159,500
 DISC COLOR:ライトグレイッシュシルバー、
 フリリアントシルバーブラック

THE
**NEWEST
 WHEEL**
Special
 スポーツホイール名鑑2025

ワーク ☎06-6746-2859
<https://www.work-wheels.co.jp>

名作をアップデートして復刻 プレミアムな走りを満たす5スポーク



末広がり研ぎ澄まされた運しさを放つ5本スポークデザインを踏襲して復刻したVSKF#。18~21インチがラインアップされており、21インチ・フルリバーはJWL-P840KG、その他サイズはJWL-P720KGをクリアさせた高耐荷重設計だ。

鍛え抜かれたアスリートの肉体美を彷彿とさせる5本スポークデザイン、そして、圧巻の深みとともに高級感を魅せる3ピース構造で、重量級ボディの4ドアツアラーを中心に人気を集めたワークVSKF。そんな名作は多くのユーザーから惜しまれつつ2017年に廃盤となってしまうが、廃盤モデルのリム交換修理期限となる2025年に復刻モデル「VSKF#」が登場した。もちろん、単純にオリジナルを復刻したわけではなく、最新の設計・解析技術を駆使してVSKFをアップデートした新生モデルだ。センターキャップを起点にフランジに向けて末広がりに伸ばしていくスポークのグラマラスさや、スポーク間に配置されるピアスポルトといったデザインアプローチは変わらないが、洗練された美しさとして立体的なボリューム感を際立たせるためにラウンド形状を見直し



マッチング車両は標準のピアスポルトをチョイスし、ブラックアルマイトにアレンジしたリムとフリリアントシルバーブラックのディスクを明確に区分。新生プレミアムらしい装いを加えるなら、オリジナルにはなかったチタンコートピアスポルトをあしらおうといい。



面で仕上げられていたオリジナルに対し、VSKF#はエッジの効いたキャラクターラインをあしらって洗練されたボリューム感を立体的に魅せるスポークサイドとなっている。ディスク裏の最適化でビッグキャリパー装着車も十二分なクリアランスだ。



中心部となるホイールキャップを起点に、ナットホール間からフランジへ向けてシームレスにスポークを伸ばしていく足長デザイン。センターキャップはブラックとレッド、シルバーのVSEインプレムの他、オプションでWインプレムも3色ラインアップされている。

た他、滑らかに仕上げられていたスポークサイドにエッジの効いたデザインラインをプラス。プレミアムなスポークデザインが一層スタイリッシュに際立つ造形美へと鍛え上げている。また、進化した鍛造技術で実現した軽量かつ高強度・高耐荷重なホイール設計、大容量ブレーキシステムに対応させるため、最適化されたディスク裏形状といった性能進化も見逃せない。今回のマッチング車両はガレージアクティブがプロデュースするドライバーカーボンBNR32だが、355φローターのモノブロック6ポットキャリパーも難なく飲み込む懐の深さ。圧巻の深みを放つステップリムの奥に、気品ある力強さを構えさせた19インチ履きで、走りだけでなくスタイリングも極めたワイドボディを飾るに相応しい威風堂々たる足元を、VSKF#は見せ付けてくれた。

尚、VSKF#はバファアルマイトリムが標準となり、プレミアムな美しさを際立たせるライトグレイッシュシルバーの他、スポークサイドのデザインラインによって引き出した立体感を上質な陰影で楽しめるフリリアントシルバーブラックのディスクを設定。そのまま履きこなしても高い満足度を味わえるが、せっかくならオリジナルの全盛期よりも表現幅が拡大されているカスタムオーダーも駆使してオリジナリティを打ち出していこう。



片側50mmワイドのフルドライカーボンボディを纏った、ガレージアクティブ「BNR32フルカーボンR」。VSKF#は前後ともに12J×19で、タイヤはプロクセスR888Rの295/30を履く。心臓部にはHKSの3.0仕様コンプリートエンジンを搭載し、VカムシステムやGT6290BBタービンの組み合わせで、800psを発生させる。

